

令和6年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立久住小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

「夢をめざし 心豊かに たくましく生きる 児童の育成」 ○めざす学校像・子どもの夢や希望を育む学校・保護者や地域に信頼され、愛される学校・安全で教育環境が整った学校 ○めざす児童像・くじけず学習する子・ずっと仲良し心やさしい子・みんな元気でたくましい子 ○めざす教師像・教育公務員として高い倫理観を持ち、服務規律を遵守する教師・教職のプロとしての使命感・実践力を持つ教師・児童・保護者・地域から信頼される教師・心身ともに健康で、心豊かな教師・学ぶ意欲のある教師	学校関係者評価委員
---	-----------

海保茂喜 佐藤勇
橋本善和 田中ひで子
伊藤芳之 香取千代美
荒居美沙子 増垣惠央
岩館史宜 木村岳史
葛生孝浩 高野菜摘

2 本年度の重点化された具体的な目標

学校教育目標の実現をめざし、知・徳・体のバランスの良い児童の育成を目指し、全職員が協働する。 ①「確かな学力の向上」を図る。授業の始まりと終わりの挨拶「語先後礼」、読み聞かせの充実②「豊かな心」の育成。道徳の時間を要とし、教育活動全体を通し、児童の道徳的実践力を育成する。③「健やかな体」の育成。保健学習(性教育・薬物乱用防止教育等)。④「家庭・地域との連携」保護者・地域・関係機関との連携を密にして、信頼される学校づくりに努める。⑤「管理・服務規則等」を遵守し、不祥事を根絶する。⑥「働き方改革」週の中で、地域巡回日を設け巡回後の退勤を推奨する。	
---	--

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
教育課程 学習指導	体験的な活動や外部人材の活用、教材の工夫など、分かりやすい授業実践に努めている。	保護者から88%の肯定的評価を得た。	A	学校支援ボランティアの協力体制が充実している。さらに継続させていく。学校での読書活動は充実してきているので、更に図書ボランティアによる読み聞かせなどの活動を進めていく。	A	A
	図書室の整備や読書タイムの実施、読み聞かせボランティアの推進など読書活動の充実に努めている。	肯定的評価は92%であるが、家庭での読書の習慣については51%と低くなっている。	A			
学校関係者 による意見等	教育にタブレットが導入されて、教職の指導力の差が顕著になってきているため、底上げが必要。 家庭での読書の習慣が低くなっている状況が見受けられるが、子供たちは乳幼児期からの読み聞かせや読書体験など、読書に興味を持って取り組みが増え効果を生んでいると考える。子供たちのこの結果は、大人の読書離れの影響が大きいのではないかと思う。読書は心を揺さぶる楽しいもので言葉に深みを与えてくれると信じ、「米粒の数だけ文字を食べる」と小さい頃に言われたことを思い出している。目に飛び込んでくる活字ではなく自ら目で拾っていく活字が脳に栄養を与え考える力をつけるものと思う。子供に期待するのであれば、教師・保護者・地域の人など、大人が実践することで子供を取り巻く環境を変えていかなければならないと思う。					
生徒指導 道徳教育 特別支援教育	思いやりや命の大切さ、きまりを守る等の態度の育成、道徳授業の公開による家庭との連携促進など、心を育ていじめのない集団づくりに取り組んでいる。	肯定的評価は80%であるが、他の項目の肯定的評価より、やや低くなっている。	B	道徳授業を一層充実させるとともに、日常の実践を図っていく。特別支援教育の理解を深める研修の推進や情報提供、具体的な教育活動の状況の周知をいっそう図っていく。	A	A
	子どもの特性(わかり方・感じ方・表し方等)の理解に努め、保護者との連携を重ねながら特別支援教育の充実に努めている。	肯定的評価は76%であるが、他の項目の肯定的評価よりやや低くなっている。	A			
学校関係者 による意見等	生徒指導や家庭への連絡にタブレットがより活用されることが望ましい。 道徳授業で求められていることは子供が考え議論することで、子供たちは友情・信頼・礼儀などは、何が正しいのか、何が大切なのかを大体は理解している。子供たちが変化の激しい社会を生き抜いていくために、「どうやって生きていくべきか」を考えさせ、よりよく生きていくための選択肢を増やしていくような授業をしていくことが大切と思う。また、障がいのある子供と障がいのない子供が共に学ぶ学校生活をおくるために重要なことは、特別な支援を必要とする子供を含む全ての子供にとって安心して学校生活を過ごせる学級をつくること、そして、出来た分かったということを実感しやすい授業を追求し、合理的配慮を含む必要な支援を行うことと考える。					
地域・ 家庭連携	保護者や地域の声に耳を傾け、課題を共有し、子どものより良い教育環境のために連携に取り組んだり支援を行ったりしている。	保護者の肯定的評価は78%であるが、他の項目の肯定的評価よりやや低くなっている。	B	学校行事等へのボランティア参加を呼びかけ、地域と一体になった教育支援と理解を図っていく。PTAや学校支援委員会との連携を深め保護者とのつながりを増やす方を練っていく。	A	A
	保護者や地域は学校の教育方針を理解し、教育活動を支援している。	保護者の肯定的評価は79%であり、他の項目の中で一番低い評価である。	B			
学校関係者 による意見等	ボランティアを募ることで、家庭との連携が強まるため引き続き呼びかけを期待する。 学校支援地域本部の活動が始まり10年が経過し、学校も地域も変化し始めていると感じる。これまでの学校が子供たちを育てるといふ発想から、地域で育てる、あるいは子供たちとともに地域を創っていくという発想に転換しつつある。さまざまな世代・環境の人々が連携・協働することは可能となりつつあるが、常に地域の教育力を見直すことを基本とし、学校が何をしてくれるのかではなく、学校も地域もどのような教育をしたいのかという議論をしながら進めることで、子供たちを通して学校と地域が共に成長することになると考える。					

4 次期の重点目標と改善のための方策

<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程や学習指導については、学校評価においても高い評価を頂いている。今後も体験学習や外部人材を取り入れた学習の場の工夫や教員の研修を深め児童の学力向上につながる指導を探求していく。 ・読書活動の充実をさらに深めるために、ボランティアや委員会児童による読み聞かせの推進、家庭での読み聞かせの啓発を積極的に行い、連携を強化していく。 ・不登校支援については、家庭や地域・関係機関との連携をさらに図っていく。 ・生徒指導・道徳・特別支援については、授業規律定着の取り組みの重点化や学校と家庭での生活指導の連携強化を進めていく。また、特別支援については、引き続きこの特性に応じた支援を保護者と共通理解を深めながら実施していく。 ・地域・家庭連携については、保護者の理解を深めるために、学校へ来る機会の周知をさらに増やしたり、学校行事の配信等を検討したり、「学校の見える化」を図ると同時に学校経営の方向や具体的な手立てを発信し、理解を深めていく。 ・登下校時の見守りや公園の遊び方については、地域や保護者・PTAと協力体制を築きながら、連携を強化していく。そのために学校地域支援本部事業を有効に活用していく。
--